



発効日：2024年2月発行（VOL.4）

発行元：医療法人社団聖稜会 聖稜リハビリテーション病院 リハビリテーション部

住所：静岡県藤枝市宮原676-1 TEL：054-639-0112



「デジタル社会の波乗りをしている絵」
（栗本の要望で上記タイトルを画像生成AIにて作成）

リハビリテーションとDX

リハビリテーション部 副部長 栗本由美

昭和生まれの私は、アナログ社会に生まれデジタルの波に漂流中です（笑）

最近では耳馴染みのないデジタルに関わる言葉も多く聞くようになりました。DXもその一つです。DXとはデジタル・トランスフォーメーションといい、デジタル化によって社会や生活のかたち・スタイルが変わることを言います。リハビリテーションの世界もデジタル化の波が押し寄せてきているのが現状です。デジタル化されることでの良い点は客観的な数値に基づく評価や運動を行えること、仮想空間を作ることが出来ることなどがあります。時代の流れとともにリハビリテーションも、より対象者自身がActiveに動く仕組みが取り入れられ、それを扱う者も変わっていく必要があることを感じます。聖稜リハビリテーション病院はデジタルの波に乗れるのか???乞うご期待！

右の絵も画像生成AIにタイトルを入力するだけで1分もかからず作成できました。所々、違和感がありますが、簡単にできますね…。 （編集長 増田）

最先端のリハ機器特集！

- P1：リハビリとDX
- P2：運転
- P3：VR（仮想現実）
- P4：地域リハ報告



「ドライビングシミュレーターを使用する患者」



「VRでリハビリする患者」



最新式ドライブシミュレーター導入！

運転支援チーム 作業療法士 藤牧由衣



【ドライブシミュレーターについて】

当院では脳血管疾患などを発症され、自動車運転再開のご希望のある方に対して、症状の有無に関わらず自動車運転に対する検査や評価を行い、自動車運転再開への支援を行ってきました。そして2023年4月、HONDAより発売された運転能力を評価する医療機関向けの最新型ドライブシミュレーター「DB型Model-A」を導入いたしました。通常にはない運転座席や実車同様の部品を多く装備しており、映像をみながら実運転操作に必要な手足の複合的動作を実際に車を運転しているような感覚で体験出来ます。

【当院での活用方法】

現在、自動車運転再開のご希望がある患者様に担当医の指示のもとドライブシミュレーターを実際に活用しています。最初に自動車運転に必要な能力を評価し、その後訓練用として市街地や高速道路、また環境別（昼間、夜間、雨、霧）に走行体験ができます。そのため、今後患者様が運転する環境に近い状況で訓練が可能です。以前まで机上検査のみで運転能力を評価していましたが、ドライブシミュレーターを活用することで、どういう症状が自動車運転に影響しやすいのか判断がしやすくなりました。

また、オプション装置により脊髄損傷・片麻痺など、車に工夫が必要な方にも対応しています。



医師の診察

運転機能検査・訓練



シミュレーターによる
評価・練習

教習所にて実車評価



医師の診察



【最後に】

退院後の生活において、通勤や買い物など車がないと生活が困難な患者様が多くいらっしゃいます。そのため、当院では最新のドライブシミュレーターを利用し、復職や自動車運転再開を希望されている方の支援が出来ればと考えています。今後も患者様や御家族様が安心して社会復帰に取り組めるようサポートして参ります。

当院の自動車運転評価の流れ



VR（仮想現実）を使用するリハビリ機器を導入しました！



【mediVRカグラとは】

mediVRカグラは仮想空間上の狙った位置に腕を左右交互に伸ばす動作を繰り返すことで、姿勢バランスや二重課題型の認知処理機能を鍛えるリハビリテーションをサポートするための医療機器になります。

椅子に座ったまま腕の伸ばすため、転倒の危険性が少なく、立位姿勢の保持や歩行が難しい方も安全に取り組むことができます。

リーチ動作による身体面のアプローチに加え、認知機能面に対してもアプローチが可能です。

【対象】

脳血管疾患や運動器疾患などの身体的障害、高次脳機能障害や認知症などの認知的障害に対して介入が可能であり、対象の障害は多岐にわたります。

入院患者だけではなく、外来の患者様に対しても成人小児問わず条件が合えば使用しています。

【リハビリ介入例】

- ・パーキンソン病の患者様の姿勢や重心移動が改善することで歩行スピードや歩行の安定性向上に繋がりました。
- ・小脳失調の患者様の失調症状が改善しました。

このハイテク機器を使いこなすために、当院リハビリ職員がmediVRカグラのリハビリテーションセンター（大阪）に研修に行っています。研修で得た知識をもとに使用方法や介入方法など研鑽し、患者様の問題点に対して効果的な個別性のある介入を実施しています。また、遠隔にてmediVRカグラ本社のスタッフのサポートを受けながら、治療の質を高めています。

今後も多くの患者様の経験をしながらmediVRカグラの運用をすることで、患者様の身体機能やADLの改善に大きな期待が持てると思っています。



2023年10月28日（土）、地域リハ事業を実施しました。当院では食事に関するDVDを作成した年や栄養の重要性を伝えた年など、毎年食事に関する様々な事柄を地域に向けて発信してきました。今年度は医療介護現場で悩みが多い「食事介助」について、実技を中心に研修会を行いました。

講師は全て当院のセラピストであり、プログラムは

①食事介助と姿勢

（理学療法士による姿勢の考え方と調整方法）

②食事介助と認知機能

（作業療法士による先行期の重要性と工夫の方法）

③食事介助方法

（言語聴覚士による介助のポイントと実際の流れ）

と各々の専門性を活かした内容を提供しました。

全ての参加者から好評を頂き、「全ての介護職が受講するべきだ」「自分で体験する事ができてとても勉強になった」などの意見が御座いました。

今後も地域に向けてリハビリの力を発信していきます。機会があれば是非ご参加下さい。

（言語聴覚士 増田純市）



編集後記

1～2年ほどサボってしまい、久しぶりのリハビリ新聞となりました…、すみません。久しぶりに作ろうとしたきっかけは、今回特集している最新のリハ機器の導入が続いた事によります。技術の進歩に目を見張ることが多い昨今ですが、使用する人間側もしっかりとついていけないといけませんね。置いてかれそうです。

さて、2024年4月には医療介護福祉のトリプル改定が待ち構えています。感染関係も慣れてはきましたが未だに落ちつかず、バタバタが続きますね。ここ数年を乗り越え、日頃から頑張っている皆様の2024年が良い年になりますように願っております。

（編集長；言語聴覚士 増田純市）